

特許流通 ニュースレター

特許流通
ニュースレター

No. 5

2004.11.15
発行

特許流通成功事例 (P2-5)

成約事例レポート 2-3

佐野 馨 特許流通アドバイザーに聞く

「加温二浴式パーマ用剤並びにそれを用いた毛髪のパーマ処理方法」
美容師が自らの経験でパーマ剤の改良に取り組む

嶋北 正俊 特許流通アドバイザーに聞く

「脱湿方法」

基本技術を導入して小型の乾燥空気製造装置を開発



主な特許流通事例 4-5

2004年9月30日までの報道記事より

- 1.高精度の穴あけロボ
 - 2.自然石アート舗装
 - 3.イオン結合原理による洗浄
 - 4.静電場処理装置「氷感」
 - 5.物忘れ自己診断システムおよびその方法、装置
 - 6.高速メカニカルアロイング装置（高速粉体反応装置）
 - 7.刃物ホルダーの加熱方法および焼ばめ装置（ほか1件）
- ほか合計10件

企業インタビュー 6-7



エイムテック 有馬 慎一郎社長に聞く

12のアイデアを抱えて独立
熊本大学との産学連携で事業化



インフォメーション 8

「国際特許流通セミナー2005」2005年1月24日から3日間開催
「知恵の輪ニッポン」

——情報・研修館提供のテレビ番組を中国地域で放映中
「特許電子図書館(IPDL)」のURLを変更



佐野 馨 特許流通アドバイザーに聞く 成約事例レポート

技術シーズ名 「加温二浴式パーマ用剤並びにそれを用いた毛髪のパーマ処理方法」(特許第3330581号)

美容師が自らの経験でパーマ剤の改良に取り組む

オカ・コーポレーション(島根県益田市)の岡信孝社長は美容師歴20年。自分の店を開いて16年になる。プロの美容師としてずっと悩んでいたのが、パーマ処理による髪の傷みだった。パーマをかけると髪の艶がなくなる傾向があったからだ。もともと食生活の変化で髪質が悪くなっているのに加えて、カラー着色の影響や薬品と熱を加えるパーマ処理で、さらに髪の傷みが進む。さまざまなトリートメント剤を使っても満足はいく結果が得られなかった。



図1 施術中の発明者・岡信孝社長

パーマ剤の常識と異なる施術法を含む特許が成立

一般的なパーマ剤は、薬液を髪に塗り、カールで固定した後に常温放置あるいは加温放置する。髪型は薬液が作り出す。必然的に、強い薬液を使っていることになり、髪へのダメージも大きい。これに対して岡社長が発明した薬液「クリエイティブ・マジック」は、髪にやさしい成分にしている。髪の構成成分であるセラミド(脂質)やアミノ酸をたくさん配合したのが特徴。このため、従来のパーマと同じやり方で薬液だけを「クリエイティブ・マジック」に代えただけでは、十分な効果は望めない。

まず髪に薬液をしっかりとみ込んで馴染ませ、髪の傷んだ部分を成分がカバーするような施術が必要になる。一般にくせ毛は毛の断面が丸くなくひずんでいることが多いが、同薬液がじっくりしみ込んだ髪は断面が丸くなり、変なくせがなくなることで、思い通りの髪型にパーマがかかる。さらに、通常ではただクルクル巻くだけのカールだが、髪にテンションを与えながらしっかりとカールに巻き込むという、独自の方法を創案している。また、通常はストレートパーマ、ウェーブ、アイロンパーマとそれぞれ薬液が異なるが、同薬液はいずれの施術にも使えるのが特徴である。

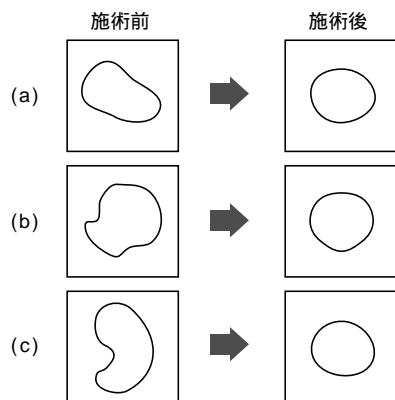


図2 特許公報に示されている施術前後の髪断面図(島根県産業技術センター測定)

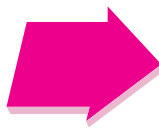
異業種交流会での出会いから東京の展示会に出展

島根県知的所有権センターの佐野馨特許流通アドバイザーと岡社長の出会いは、島根県の開発支援制度説明会。ちょうど岡社長が特許を出願中のことだ。特許流通のことを知った岡社長は、展示会にも積極的に出展するようになる。商品が完成した直後の2001年11月に松江市で行われた「夢・人・技術ふれあいフェア2001inくにびきメッセ」で、岡社長は初めて同商品を展示。さらに、エイアイシー(東京都八王子市)との出会いは、翌2002年11月に東京で行われた「しまねビジネスプランフォーラムin東京」だった。異業種交流会の仲間の同級生という人のつながりで、東京のエイアイシーと同会場で出会い、ライセンスの話が進んだ。佐野特許流通アドバイザーは契約に至るまでのアドバイスをし、ライセンスが成立した。同特許は、薬剤だけでなく施術方法とのセットになっているので、美容師に対する講習会とマニュアルに沿った確実な施術が必要になる。一種のノウハウ付きのライセンスでもあり、佐野特許流通アドバイザーは、ライセンス成功後も両社の活動をフォローしているという。

(インタビュー:日経BPクリエイティブ編集委員 大西順雄)

〔 特許の所有者 〕

有限会社 オカ・コーポレーション
〒698-0025 島根県益田市あけぼの西町8-12



〔 実施権のライセンス先 〕

株式会社 エイアイシー
〒192-0903 東京都八王子市万町23-2

佐野 馨 特許流通アドバイザーの連絡先

TEL = 0852-60-5145 FAX = 0852-60-5148 電子メール = sano-ad@adp.jiii.or.jp



嶋北 正俊 特許流通アドバイザーに聞く 成約事例レポート

技術シーズ名 「脱湿方法」(特許第2548764号)

基本技術を導入して小型の乾燥空気製造装置を開発

ゼオライトは沸石と呼ばれる天然鉱物の一種で、結晶の基本構造の中に空洞がある。その空洞に分子やイオンが入り出ることができる。結晶構造で形成される空洞であるため、正確に大きさのそろった空洞を持つ多孔質の化合物である。原料となる金属元素の量を調整することで空洞の大きさを正確に制御でき、特定の物質を選択的に吸着し分離できる。三菱重工の長崎研究所には有力なゼオライトの研究者がいて、特殊なゼオライトの合成方法やその応用システムについて多数の特許を取得している。同社の長崎造船所は、空気分離装置や酸素富化装置などの大型プラントを製造している。



図 小型の乾燥空気製造装置(長田工業)

長田工業(長崎市)は、三菱重工長崎造船所の発注を受けた船舶や陸上機械の製造・修理が本業だが、三菱重工長崎研究所でゼオライトの研究者に協力し、関連する試験装置を製作するなどの業務も担当している。空気から水分を除去して乾燥空気を作る湿分除去装置には、造船所が製造する大型プラント以外に、小容量の小型装置にも市場性があるとにらんだのが長田工業だった。三菱重工長崎の開放特許説明会を機に、100m³以下の小容量製品について通常実施権の許諾を受け、長崎県の経営革新法認定と技術開発助成を活用して小型乾燥空気製造装置を開発した。

三菱重工長崎の特許技術開放活動がきっかけ

三菱重工長崎造船所は、長崎県の要請を受けて平成9年(1997年)から、財団法人長崎県産業技術振興財団と協力して開放特許を紹介するなど、地道な活動を実施して来た。しかし重厚長大技術を中心とする特許であるため、地元の中小企業ではなかなか手が出せないというのが実情だった。長崎県の特許出願件数は、年間約200件だが、東京本社からの出願となる三菱重工長崎の出願件数は年間600件を下らない。最近の工業所有権情報・研修館の調査報告でも、長崎県は茨城県や滋賀県とともに「人口当たりの発明者が特別に多い県」という結果が出ている。つまり長崎県は、この知的財産の潜在力をいかに活かしていけるかが、地域産業活性化のポイントになる。

中小企業の視点で選んだ三菱重工長崎の開放特許説明会

平成13年(2001年)に当時の三菱重工長崎造船所の窓口である外注対策室から長崎県知的所有権センターに「特許を開放しても、活用されないのではいけない。何とかしたい」という相談があった。そこで、知的財産の提供を受ける中小企業の立場で「これがほしい」という技術シーズを選択し、提供してみようということになった。当時、三菱重工長崎の公開済み出願特許は、累計で約8000件あった。これを長崎県工業技術センターと長崎大学産学連携室、そして特許流通アドバイザー3人で仕分けした。リストからまず400件に絞り、次に公報フロントページを参照して50件を選定、そのうち三菱重工から開放承諾を得た36件について説明会を実施した。説明会では、主要な特許を中心に分野技術を総合的に発明者自身が説明した。

参加110社のうち25社が詳細説明会へ、さらに10社が個別検討会へ進み、3社が実施契約を結んで技術開発に着手した。このうちの1社が長田工業だった。「成功した企業は、明確な商品企画力、技術開発を継続できる体力、商品を仕上げるまでの忍耐力が決め手だ」と、嶋北正俊特許流通アドバイザーは語る。長田工業は、同じゼオライトを応用し、「青果物の保鮮装置」(エチレン処理技術)を地域新生コンソーシアム研究開発事業で開発中だ。

(インタビュー:日経BPクリエイティブ編集委員 大西順雄)

〔 特許の所有者 〕

三菱重工業 株式会社
〒108-8215 東京都港区港南2-16-5



〔 実施権のライセンス先 〕

長田工業 株式会社
〒850-0063 長崎市飽の浦町3-5

嶋北 正俊 特許流通アドバイザーの連絡先

TEL = 0957-52-1138 FAX = 0957-52-1140 電子メール = shimakita-ad@adp.jiii.or.jp

2004年9月30日までの報道記事より

主な特許流通事例

ライセンス案件	ライセンサー(特許提供者)	ライセンシー(特許導入者)	報道記事
高精度の穴あけロボ	柳沢健 (長野県松本市)	(株)三映電器製作所 (長野県小諸市)	日本経済新聞 2004年4月10日
	担当した 徳永 正明 特許流通アドバイザーのコメント		
		ロボットの位置決めを行う直交2軸が、四角形の枠の内側を移動することで高い位置決め精度を出せる。この特許を持つ長野県松本市の柳沢健氏から三映電器製作所(長野県小諸市)が通常実施権のライセンスを受け、製造販売に乗り出す。天井クレーンなどにも応用できる技術だが、小型のネジ加工用ロボットとして高精度を売り物にする。三映電器製作所の武藤社長から同技術についてメールで問い合わせを受けた長野県知的所有権センターの徳永正明特許流通アドバイザーは、発明者の柳沢氏を訪問。技術移転の話を通じ、約6カ月で通常実施権のライセンスが成立した。「調整に難航したが、いい経験になった。今後の交渉に生かしたい」という。	
アドバイザー連絡先		電話:026-229-7688 電子メール: tokunaga-ad@adp.jiii.or.jp	
自然石アート舗装	(有)アステス (岐阜県・真正町)	高橋建材(株) (群馬県藤岡市)	ぐんま経済新聞 2004年4月15日
	担当した 三田 隆志 特許流通アドバイザーのコメント		
		アスファルトの表面のタールをサンドブラストで取り除き、内部の骨材になっている自然石を表面に出すことで、自然石の色を生かしたアート舗装を実現する技術を、アステス(岐阜県・真正町)が開発した。高橋建材(群馬県藤岡市)は同技術の特許の通常実施権ライセンスを受け、自然石アート舗装とブロック舗装のリフレッシュ事業を開始した。岐阜県知的所有権センターの木下裕雄特許流通アドバイザー(当時)から連絡を受けた群馬県産業技術センターの三田隆志特許流通アドバイザーが、秘密保持契約締結後の両社の実施許諾契約に協力した。「アドバイザー間のネットワークを活用し、より多くの中小企業に特許流通を活用してもらいたい」という。	
アドバイザー連絡先		電話:027-287-4455 電子メール: mita-ad@adp.jiii.or.jp	
イオン結合原理による洗浄	(株)エコ・グリーン (福岡市)	(有)エコ・クリーンアイランド (宮崎県延岡市)	宮崎日日新聞 2004年4月29日
	担当した 久保田 英世 特許流通アドバイザーのコメント		
		エコ・グリーン(福岡市)は、建物の外壁や墓石などに特殊な溶剤を高圧で噴射し、イオンの働きによって汚れを落とすシステムを開発した。溶剤を回収して再利用できるのが特徴。エコ・クリーンアイランド(宮崎県延岡市)がこの特許の通常実施権を受けて、宮崎県内で洗浄事業を始めた。同社がエコ・グリーンにアプローチしたことを、宮崎県知的所有権センターの久保田英世特許流通アドバイザーが福岡県知的所有権センターの道津毅特許流通アドバイザー(当時)から聞き、ライセンスの相談に乗った。「県内の需要や採算性を懸念したが、ライセンシーの強い事業意志もあり契約できた。契約後は県産業支援財団と連携して事業開始を支援した」と語る。	
アドバイザー連絡先		電話:0985-74-2953 電子メール: kubota-ad@adp.jiii.or.jp	
静電場処理装置「氷感」	エル・エフ・ラボラトリー(株) (神奈川県茅ヶ崎市)	(株)フィールテクノロジー (鳥根県大田市)	日本経済新聞 2004年8月18日
	担当した 佐野 馨 特許流通アドバイザーのコメント		
		電場発生装置内を3000V以上の高電圧に保つことで、氷点下で食品を保存または解凍できる装置を、エル・エフ・ラボラトリー(神奈川県茅ヶ崎市)が開発していた。この特許の通常実施権のライセンスをフィールテクノロジー(鳥根県大田市)が受け、「氷感」として完成した。食品以外に、臓器・血液保存の医療分野、車両・船舶などの物流分野にも製品化を始めた。高電圧状態が安定しているのが特徴。鳥根県知的所有権センターの佐野馨特許流通アドバイザーは、ライセンシーが大学と共同で医療分野での活用推進を図る研究意欲が高く印象的だったという。「ライセンシーの前向きな意欲、行動力、発展的な考え方を次の仕事に生かしたい」と語る。	
アドバイザー連絡先		電話:0852-60-5145 電子メール: sano-ad@adp.jiii.or.jp	

	ライセンス案件	ライセンサー(特許提供者)	ライセンシー(特許導入者)	報道記事
5	物忘れ自己診断システムおよびその方法、装置 	鳥取大学医学部浦上克哉教授 (鳥取県米子市)	日本光電ウエルネス(株) (東京都新宿区)	日本経済新聞 2004年8月26日
	<p>担当した 上山 良一 特許流通アドバイザーのコメント</p> <p> 痴呆がアルツハイマー型かどうかを、タッチパネル式コンピューターを使って自己診断できるシステムを鳥取大学医学部の浦上克哉教授が開発。日本光電ウエルネス(東京都新宿区)が特許権の通常実施権ライセンスを受け製品化した。5問の質問に答えるだけで、5分以内に要検査かどうか判断できる。財団法人鳥取県産業振興機構の上山良一特許流通アドバイザーは、契約書作成に当たってライセンシードラフトでスタートしたためライセンシー寄りにならないように相談を受けながら支援を進めた。「ビジネスの枠組みについて両当事者が契約書を取り決め、それがビジネスをスムーズに進めることになるということ、分かりやすく説明していきたい」という。</p> <p>アドバイザー連絡先 電話: 0857-52-6722 電子メール: ueyama-ad@adp.jiii.or.jp</p>			
6	高速メカニカルアロイング装置 (高速粉体反応装置) 	(株)東北テクノアーチ (仙台市)	(株)アーステクニカ (東京都中央区) (株)真壁技研(仙台市)	日刊工業新聞 2004年9月10日
	<p>担当した 井裕 弘 特許流通アドバイザーのコメント</p> <p> 金属粉体に機械的な力を加えて合金を作るメカニカルアロイング法として、シンプルな製造装置。宮城工業高等専門学校の丹野浩一教授が開発した。TLO(技術移転機関)の東北テクノアーチ(仙台市)を通じて、基本特許の非独占通常実施権をアーステクニカ(東京都中央区)と真壁技研(仙台市)が受けて、粉体反応装置として製品化に取り組んでいる。両社とも独占的実施権を望んだが、大型をアーステクニカ、小型を真壁技研と棲み分けてお互いのノウハウを出し合うような覚書を交わしている。東北テクノアーチの井裕弘特許流通アドバイザーは、「シーズに適合すると思われる企業に、どしどし当たることが大切」という。</p> <p>アドバイザー連絡先 電話: 022-222-3049 電子メール: isako-ad@adp.jiii.or.jp</p>			
7	刃物ホルダーの加熱方法および焼ばめ装置(ほか1件) 	ワイエス電子工業(株) (甲府市)	(株)ソディックハイテック (横浜市)	山梨日日新聞 2004年9月14日
	<p>担当した 還田 隆 特許流通アドバイザーのコメント</p> <p> 工作機械のツール交換(ATC)に、高周波誘導加熱の焼ばめチャッキング法を導入することにより、従来の機械式チャッキングでは得られない高い心精度と把握力を確保し、さらに人手を介さず短時間に、しかも大量(250本以上)のツール交換が行える技術をワイエス電子工業(甲府市)が開発した。山梨県と実施地区である福井県の上坂旭特許流通アドバイザーの協力のもと、ソディックハイテック(横浜市)が、まだ申請中の同特許の使用ライセンスを受け、自社の工作機械と組み合わせ、新世代の加工システムとして製品化を目指している。山梨県工業技術センターの還田隆特許流通アドバイザーは「横展開や、他の産業へ展開を進めたい」としている。</p> <p>アドバイザー連絡先 電話: 055-220-2409 電子メール: kanda-ad@adp.jiii.or.jp</p>			
8	風カタービン駆動による冷凍システム及びその運用方法	学校法人早稲田大学 (東京都新宿区)	(株)イーアンドイー (大阪市)	科学新聞 2004年5月21日
9	涵養型貯留施設	東京設計事務所(有) (松江市)	(有)アイテック (鳥取県米子市)	山陰経済ウイークリー 2004年8月10日
10	折り畳み椅子及びこの椅子が配された歩道	新産業創出(株) (金沢市)	(株)産機(松江市) (有)親共鉄工所(松江市)	山陰経済ウイークリー 2004年8月31日

これらの事例を含めて、特許流通の成約件数は
4,786件に達しました!! (平成9年度~平成16年9月30日の累計)

12のアイデアを抱えて独立 熊本大学との産学連携で事業化



これまでの勘に頼っていたガス漏れ検査をなんとか自動化したいという素朴で強い信念が、ベンチャー企業の設立につながり、世界で初めての測定器が誕生した。特許出願の相談をするために訪ねた特許流通アドバイザーとの出会いによって、各種の補助金の存在を知り、また大学との産学連携へ発展して花開いた。起業から大学との出会い、共同研究から製品化、そして世界戦略までを伺った。

企業概要

株式会社EIMTECK

本社所在地：〒861-2202 熊本県益城町田原2081-10

事業内容：電子応用機器の開発、製造、販売、メンテナンス

技術移転実績：1件

まさに「必要は発明の母」である。プロパンガスの気密・漏えい試験用圧力計「セーバープロ」(図1)を開発したEIMTECK(熊本県・益城町)の有馬慎一郎社長は、以前はガス関連会社で都市ガス・プロパンガスの配管からのガス漏れ検査を18年間にわたって見てきたサラリーマンだった。

一般に行われているガス漏れ検査は、宅内のガス配管設備のガス供給を止めた状態で、密閉された配管に手動ポンプで空気を送り込んで圧力を高め、一定時間後の圧力低下があるかどうかで漏えいを判断する圧力試験が中

心。特にガス配管設備にはガス器具やガスメーターなどが接続されており、高い圧力で検査すると故障するため、2~10kPa(パスカル)の低い圧力で計測しなければならない。

ところが、ここで問題となるのが、計測している間に温度が変化すると圧力も変化してしまうという現象である。例えば、温度が1 下がれば圧力も0.36kPa低下してしまう。セーバープロの最小目盛は0.01kPaなので、1目盛、約0.03 の温度変化で影響を受けるほど微妙な世界である。そのような状況の下、従来計測方法では圧力低下があれば再計測したり、後日、再検査したりしていた。

しかし、場合によっては計測を担当する検査担当者の勘に頼っている現状もあるという。このような理由により気温の低下が大きい夕方以降の検査を行わないことも一般的で、1日に処理できる軒数に限度があった。

ニーズを確信して独立

有馬氏の当時の発想は、まず作業の自動化ができないか、というものだった。圧力試験で2~10kPa程度の圧力を加えるのに一般には手動ポンプを用いるが、単純に配管に息を吹き込んで圧力を加えるといったやり方が行われているケースもあったという。これら

の工程を自動ポンプで行うだけでも便利だろうというものだ。

しかし同社で取締役になって、システムの開発を1999年に社内提案した時には、全く受け入れられなかった。ニーズを確信していた有馬氏は、この自動化システムを含む12機種もの測定システムのアイデアを心に秘めて独立した。

まず初めに、特許出願の相談のために熊本県知的所有権センターを訪れた有馬氏は、深見毅特許流通アドバイザーと出会う。特許出願のアドバイスとともに、中小企業支援センターや各種補助金について紹介を受けた。

EIMTECKを株式会社として設立したのは2001年1月。そして、製造を委託する企業を深見特許流通アドバイザーと中小企業支援センターが協力して紹介し、同年2月にライセンスと



図1 温度補正で測定を自動化した「セーバープロ」



図2 「セーバープロ」を使ったプロパンガスのガス漏れ検査

して熊本テクノ（熊本県・戸島町）との出会いがあった。

その後、有馬社長は2001年5月、熊本大学地域共同研究センターの門をたたいた。製造業として全く経験のない今の自分では、たとえ製品が完成したとしてもガス業界では誰も話を聞いてくれないので、製品に対して大学の評価をもらえれば、売れるようになるのではないかという理由からだった。

話を聞いてもらったのは、熊大地域共同研究センターの上田専任助教授（当時）ら工学関連の4人の教員。上田助教授は、熊大発バイオテクノロジーベンチャー企業のトランスジェニック（熊本県・益城町）の同センターでの起業を支援したことで有名だ。

開発の過程で、全国のプロパンガス事業者のニーズを調査した結果、「自動ポンプを使用した便利さだけでなく温度補正機能を加えなければ売れない」ということが分かった。これは、独立当時の製品アイデアとして考えていたうちの3番目の製品に相当するものだった。

理論的に「漏れ体積」を計算

ガス配管の設置状況は個別に異なる。地中にある部分や壁の中、室内、屋外など、場所によって温度差があり、それぞれの長さも異なる。気温の高い地域と低い地域によって温度差などの条件も異なるし、気温の上昇時間帯か下降時間帯かによっても条件が異なる。これらの課題を克服したガス漏れ検査装置の開発というテーマに、上田助教授らが興味を示した。熊大とエイムテックの温度補正に関する共同研究が始まった。

これまでは「ガスが漏れれば圧力が低下する」ということだけでガス漏れを判断していた。「セーバープロ」では「実際にどれだけの量のガスが漏れたか」を計算式から求めているのが特徴だ。温度補正の仕組みは、自動ポンプで加圧して圧力変化を測定する工程の前後で、温度変化の影響を測定する（図2）。配管容量は、大気圧の状態から一定の圧力になるまで送り込んだ空

気の流量で求める。

具体的な検査の方法は、まず、大気圧状態にしたガス配管の圧力変化を約1分間読み取る。この変化量が、一定時間における温度による圧力変化の大きさになる。

その後、圧力

を5.4kPaまで上げて5分間保持し、その間の圧力の変化を読む。圧力を下げ再び大気圧で約1分間保持し圧力変化を読む。本測定前後の2回の大気圧測定によって、温度による圧力への影響を計算し、本測定の結果を補正する（図3）。これにより、本測定時の圧力低下が、漏れによるものか、温度変化によるものかを自動的に判定する。条件の違いによって問題なく結果が得られることを繰り返し実験と実地試験で検証した。この温度補正のアルゴリズムによるガス漏れ検査装置の特許を2001年11月に申請した。

2002年1月に東京で開かれた「国際特許流通セミナー」と、2002年9月の「特許流通フェアin東京」の出席で技術シーズとして発表した。同年4月に熊本テクノと秘密保持契約を行い「セーバープロ」を製品化。5月には全国販売が開始された。11月には深見特許流通アドバイザーの支援で同社と製造委託契約が交わされ、通常実施権がライセンスされた。また2002年11月にPCT（Patent Cooperation Treaty = 特許協力条約）出願による国際特許を出願している。日本では2003年10月に特許となった

ベンチャーに徹した企画で勝負

この仕組みは、プロパンガスだけでなく都市ガスの漏えい検査にも応用展開が可能。2004年内の販売予定である。当面の目標は関連測定器市場の1割の2万台の販売だ。また、病院や学校、集合住宅などの大規模な配管設備については、「セーバープロ」の特許アルゴ

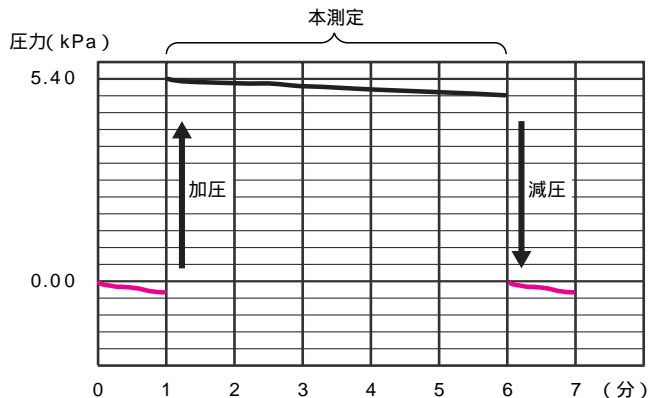


図3 本測定の前後に行う大気圧での圧力変化から温度の影響を補正する

リズムをさらに進化させ、大容量に対応した製品開発を経済産業省の採択事業として進めている。特に、東京ガスが開発したガス回収装置との組み合わせにより、配管内の残ガスを無駄にしない省エネルギーな検査装置となる。

今後は独立当初に掲げた12の製品アイデアの中でまだ手がけていない製品の開発を次々に行う考えだ。例えばガスタンクのような大容量のシステムにおけるガス漏れ検査のシステムや、環境関連機器など、ベンチャー企業らしい「あっ」と言わせるアイデアを秘めている。また、販売した計測システムを修正したりバージョンアップをしたりするメンテナンス事業も始めた。

既に、各地で使われた実績をフィードバックして、内蔵ソフトウェアのバージョンは1.4と改良が続いているという。2004年に熊大を退官した上田氏を技術顧問として招き、引き続き技術の向上も図っている。

エイムテックは2003年4月に「熊本県工業大賞」を、2004年には「九州産業技術センター賞」を受賞した。売り上げも倍々に伸ばしている同社だが、市場のニーズを聞いた製品開発に徹するベンチャー精神を貫く考えだ。

（インタビュー：日経BPクリエイティブ編集委員 大西順雄）

特許流通アドバイザー連絡先



熊本県知的所有権センター

深見 毅

電話 = 096-331-7023

電子メール = fukami-ad@adp.jiii.or.jp

「国際特許流通セミナー2005」、2005年1月24日から3日間開催

特許流通の促進と知的財産取引業の育成を目的に、国内・国外から約70人の技術移転の専門家を講師として招へいし、大学の知的財産戦略、先進企業の知財戦略などに関する基調講演やパネルディスカッション、ワークショップを行う。2004年11月15日(月)に情報・研修館のホームページで参加募集を開始する。

日時： 2005年1月24日(月)～26日(水)
10:00～16:40

場所： ロイヤルパークホテル
東京都中央区日本橋蛸殻町2-1-1

入場料： 無料(事前登録制)

言語： 日本語・英語(同時通訳)

主催： 独立行政法人工業所有権情報・研修館

後援： 特許庁 / 日本弁理士会 / 日本知的財産協会 / 日本ライセンス協会 / 日本知的財産戦略協議会 / 大学知財管理・技術移転協議会 / 大学技術管理者協会(AUTM)

プログラム：

1. 基調講演(5人)

- 1月24日 堀場 雅夫氏(株式会社堀場製作所 取締役会長)
相澤 益男氏(東京工業大学 学長)
- 1月25日 鮫島 正洋氏(内田・鮫島法律事務所 弁護士・弁理士)
- 1月26日 青木 初夫氏(藤沢薬品工業株式会社 代表取締役社長)
- 1月26日 ジェフリー・ウィードマン氏
(ザ・プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニー 副社長)

2. 特別講演(2人)

- 1月25日 ウィリー・マンフロイ氏(国際ライセンス協会(LESI)会長)
- 1月26日 アン・ハマスレイ氏(大学技術管理者協会(AUTM)会長)

3. パネルディスカッション(大学・地域)

- 1月24日 (1)先進的・TLO経営-1-海外の動き
(2)先進的・TLO経営-2-新時代に向けて
- 1月25日 (1)大学発ベンチャーへの期待と現状
(2)産学間共同研究開発の現状と課題

- 1月26日 (1)技術移転の核心-特許流通アドバイザーか語りき
(2)知的財産を核とする地域コンソーシアムの構築

4. パネルディスカッション(民間・知財一般)

- 1月24日 (1)企業経営と知的財産-特許ポートフォリオ・マネジメント
(2)企業のリスク管理-トレードシークレット
- 1月25日 (1)知的資産経営の基軸-知財ライフサイクルマネジメント
(2)金融システムを利用した知的資産の戦略的活用
- 1月26日 (1)知的財産取引ビジネス-技術移転プランニング
(2)ガノム創薬と知財-リサーチツール特許を巡る問題点と解決策

5. ワークショップ

- 1月24日 A Systematic Approach to Technology Marketing
- 1月25日 The MOCK-ライセンス契約シミュレーション
- 1月26日 知的財産・技術移転人材-CIPO育成に向けて

詳細は、独立行政法人工業所有権情報・研修館のホームページに2004年11月15日に掲載されます。
http://www.ryutu.ncipi.go.jp/seminar_a/index.html

「知恵の輪ニッポン」——情報・研修館提供のテレビ番組を中国地域で放映中

独立行政法人工業所有権情報・研修館は、2004年10月6日(水)から、特許活用事例を紹介するテレビ番組「知恵の輪ニッポン」を提供している。TSS(テレビ新広島)をキー局に、OHK(岡山放送)、TSK(山陰中央テレビ)、TYS(テレビ山口)の4放送局が中国地域5県で全13回放送する。特許流通アドバイザーが支援した特許活用事例をインタビューや再現ビデオなどで紹介するメインコーナー「知恵の輪ファイル」のほか、特許についてのミニ知識、全国の技術シーズの紹介、専門家のアドバイスなどのミニコーナーなどがある。また、下記ホームページでは、番組で取り上げられた流通案件の詳細などを見ることができる。

詳細は「知恵の輪ニッポン」のホームページをご覧ください。 <http://www.co-ip.jp/>

「特許電子図書館(IPDL)」のURLを変更

独立行政法人工業所有権総合情報館は、2004年10月1日、名称を「独立行政法人工業所有権情報・研修館」に改めた。対外情報サービス業務と人材育成業務を新たに追加し、さらなる業務拡大を図っている。これに伴い、特許電子図書館(IPDL)のURLを下記のように変更した。

特許電子図書館(IPDL)のURL <http://www.ipdl.ncipi.go.jp/homepg.ipdl>

特許流通 ニュースレター

特許流通ニュースレター No.5

2004年11月15日

[発行] 社団法人発明協会 研究所
特許流通促進事業センター

[企画・編集・制作] 日経BPクリエイティブ

[印刷] 大日本印刷

「特許流通ニュースレター」は、独立行政法人工業所有権情報・研修館からの委託事業によって編集・制作されています。

「特許流通ニュースレター」のバックナンバーは、独立行政法人工業所有権情報・研修館のWEBページURL：<http://www.ryutu.ncipi.go.jp/index.html>でPDF形式でご覧になれます。

お問い合わせ先

社団法人発明協会 研究所 特許流通促進事業センター 特許流通促進グループ
〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-40 江戸見坂森ビル4階
TEL=03-5402-8431 FAX=03-5402-8437

著作権は、工業所有権情報・研修館と日経BPクリエイティブ、もしくは寄稿者に帰属します。記載記事を許可なく転載することを禁じます。WEBサイトへ許可なくアップするなどの再利用も禁じます。
Copyright©2004 National Center for Industrial Property Information and Training and NikkeiBP Creative, Inc. All Rights Reserved